



恵泉女学園 「花と平和のミュージアム」ニュースレター 第3号



Photos by Keisen Wild Rose Garden

「花と平和のミュージアム」と平和教育の再構築

上村英明

昨年、大学1年生に教えていて、やや衝撃的な事実がぶつかりました。生まれてから、八百屋や魚屋で買物をした経験がなく、買物はスーパーかコンビニかでしかしたことがないという学生たちでした。最近の社会の歩みを考えれば想像は可能ですが、しかしそれでもある種人間関係の新たな「物象化」の深化は衝撃的でした。

同じような社会の変化は、平和の問題についてもいえるのではないのでしょうか。総務省の人口統計によれば、2014年に日本の総人口における「戦前生まれ」は初めて2割を切りました。直接の体験者が少なくなる中、戦争体験、空襲体験、被爆体験や飢餓体験の伝承を中心に構成されることの多かった日本の平和教育は岐路にあるといえるかもしれません。

いくつかの可能性はありそうです。私見では3つのことがあります。ひとつは、平和の課題を現代的な文脈で捉えなおすこと。もうひとつは、平和の実現に取り組んだ人々の思想や実践を体系的に学ぶことです。本学では、前者は大学の「平和研究入門」という必修科目で扱われていますし、後者は「平和文化研究所」の公開講座が取り組んでいます。そして、さいごは平和の重要さを「リアルに想像する」作品に触れることです。この3番目の点について、福島菊次郎さんの作品に加え、「花と平和のミュージアム」は、2017年5月に、鉄の造形作家・武田美通さんの作品をお預かりすることになりました。1935年北海道に生まれた武田さんは、国民学校(小学校)4年生で終戦を迎え、戦後はジャーナリストとして活躍されましたが、60歳を機に、戦争と平和に関する鉄の造形作品を手掛けるようになりました。そして力強く胸を打つ作品を残して、2016年に他界されました。それらの作品から、改めて戦争の理不尽さ、日本という国家の無責任さを「リアルに想像」できる機会が作れればと、期待しています。
(花と平和のミュージアム実務委員会委員、平和文化研究所長)

角田葉子ボタニカルアート展を振り返る

ボタニカルアート移動展を振り返って

多摩市立グリーンライブセンターは、訪れる方の目的は様々で、植物に興味をもつ方、お散歩の途中で立ち寄られてのんびりと過ごす方など年間約5万人の方で賑わいます。今年1年にわたりとても貴重な角田先生のボタニカルアートをお借りして展示をさせていただき、たくさんの方に楽しんでいただきました。来場者の方が目を凝らして絵をじっくりと眺められている姿や、ガーデン内でスケッチをするグループの方達が特に熱心に絵を見て、ボタニカルアートに魅了されている情景が印象的でした。

移動展を通して、市の公共の施設に恵泉の貴重な宝物を公開出来、植物の楽しみ方のひとつをたくさんの方にお伝え出来たと思います。

(長谷川陽子 グリーンライブセンター)

1年間にわたり、多摩市立グリーンライブセンターで行われ、さらに世田谷キャンパスでも展開された移動展示、また作品が一堂に会した恵泉祭での展示を振り返ります。



グリーンライブセンターでの展示。

角田葉子ボタニカルアート展と園芸文化講演会 宇津木和夫先生「植物を描く」



来場者に丁寧に絵の説明をされる角田先生。(写真中央)

秋の恵泉祭にて、公開講座でボタニカルアート入門講座をご担当いただいている角田葉子先生のボタニカルアート展を開催することができました。角田先生は日本を代表するボタニカルアーティストのお一人ですが、本学「園芸文化研究所」の紀要の表紙を、創刊から日本の自生植物で飾ってくださり今年で12年になります。その原画12枚とともに、本学名誉教授の箱田直紀先生がベトナムで再発見された幻の黄色のツバキ *Camellia flava* をはじめとする角田先生のツバキのコレクション11点が展示され、多くの見学者にご来場いただきました。受講生の作品も同時に展示され、会場の南野キャンパスのラーニングコモンズは、熱心に見入る人の姿がたえませんでした。

また当日、「植物を描く」と題して植物画に造詣の深い宇津木先生(東京女子医大名誉教授/動物学)の講演をうかがいました(会場J202)。ボタニカルアート入門の受講生を初め、参加者は熱心に聞き入っていました。「科学の目、芸術の心で描く絵、それがボタニカルアートです」とおっしゃる角田先生からも、観察のポイントを詳しく教えていただき勉強になりましたと感想をいただきました。園芸文化の芸術面での実践的な展開をご覧いただく機会として盛会のうちに閉会することができ、講師の両先生、会場の設営を担当してくださいましたプリムベールの梶原さんをはじめ、ご協力いただきました皆さまに心より感謝いたします。

(土屋昌子 花と平和のミュージアム実務委員会委員)



展示された「ツバキのコレクション」のうちの2点。

「花と平和のミュージアム」活動記録

2016年

- 8月「角田菓子ポタニカルアート移動展」多摩市立グリーンライブセンター（GLC）「スカシユリ」展示。
- 9月「角田菓子ポタニカルアート移動展」（GLC）「レンゲツツジ」展示。
- 10月「角田菓子ポタニカルアート移動展」（GLC）「キキョウ」展示。
- 10月12,13日のイベントで配布する『フローリスト』（誠文堂新光社）増刊号フリーペーパー『園芸探偵』巻末付録「完全網羅『実際園芸』表紙一覧」に記事協力（『実際園芸』表紙画像の提供）。
- 11月「角田菓子ポタニカルアート移動展」（GLC）「ヤブツバキ」展示。「角田菓子ポタニカルアート移動展@世田谷キャンパス」「ヒメサザンカ」展示。（11月18日～12月下旬まで）
- 11月5,6日 恵泉祭「角田菓子ポタニカルアート作品展」。講演会「植物を描く」講師：宇津木和夫氏（東京女子医大名誉教授）。「福島菊次郎写真展」「創立者河井道展」。
- 11月12日「写真展 不安全な人々」（川崎市平和館）に福島菊次郎写真パネルを協力貸出。（～12月11日まで）
- 12月「角田菓子ポタニカルアート移動展」（GLC）「アオキ」展示。

2017年

- 1月「角田菓子ポタニカルアート移動展」（GLC）「ヒメサザンカ」展示。「角田菓子ポタニカルアート移動展@世田谷キャンパス」「アオキ」展示。（1月10日～3月中旬まで）
- 1月18日 古典籍『草木図説』『本草図譜』の閲覧に多摩市より2名が来館。
- 1月20日 古典籍『農業全書』を高校2年生の授業のために世田谷キャンパスに貸出。（～2月の上旬まで）
- 2月「角田菓子ポタニカルアート移動展」（GLC）「ユキツバキ」展示。
- 3月「角田菓子ポタニカルアート移動展」（GLC）「ノイバラ」展示。



ポタニカルアート展
@世田谷キャンパス
「アオキ」を展示。

福島菊次郎写真パネルを貸出した「写真展 不安全な人々」（川崎市平和館）のチラシ。



Keisen Wild Rose Garden

～オーガニックの野ばらの庭～
ガイドブック

学生プロデュースの
ガイドブックができました。
順次配布予定。

Takaramono Close up!

★有形・無形の恵泉の「たからもの」に光を当てていく紙上ミュージアム(保存版)のコーナーです。

トランク： 革製。幅61cm、高さ34.8cm、奥行き18cm。
「桑原カバン店」

このトランクは、片手で充分持ち運べるサイズです。(写真左)外側の底の部分に「M. KAWAI」の型押しがしてあります。蓋を開くと内ポケットがあり、青が基調のタータンチェックの布が貼られています。底にあたる部分に楕円形の皮のタグが貼ってあり1行目に「GINZA TOKYO」、2行目に「KUWABARA」、3行目に「東京 クワバラ 銀座」と右から左に書かれています。(写真中央) この「銀座 クワバラ」は当時の銀座6丁目2番地(現在の銀座6丁目9番)に店舗のあった「桑原カバン店」の可能性が有ります。京橋中央区立図書館所蔵の中央区の電話番号簿には1934年から1939年にかけてこの番地に「桑原カバン店」の名称と電話番号の記載があり1942年には消えています。また「クワハラカバン店」と書かれた看板が確認できる当時の銀座6丁目2番地の通りの写真も残っています。タグに「銀座」とあるこのトランクはおそらく店舗が銀座にあったこの期間に購入されたのでしよう。

「鎌倉丸」

トランクの側面(蓋の部分)に貼られているステッカー(写真右)には「Michi Kawai

(Destination) Los Angeles

Kamakura (MARU)

(GLASS) second (ROOM) NO.261

と記されています。「Kamakura (MARU)」とは当時の豪華客船「鎌倉丸」と思われ、この船名は、「秩父丸」から1939年に改名されました。このステッカーは、1941年4月にカリフォルニア・リバーサイドで開催された「リバーサイド日米キリスト者会議」の平和使節団として河井道が渡米する際、鎌倉丸に乗船した時にトランクに貼られたものと思われます。当時の『恵泉誌』の河井道の巻頭言にも「出帆は三月二七日の鎌倉丸で、船中にて一行は折りつづけていく(1941.3)と記されています。

河井道が乗船したこの「鎌倉丸」は日本郵船が保有した豪華客船でした。1930年4月に就航。1万498総トン、全長178メートル、20.65ノット。船客数は一等243人、二等95人、三等500人。横浜・サンフランシスコ間の太平洋航路を12日間余りで航行しました。送電能力など最新の設備が整い、ヨーロッパ様式や和室の船室があり、ダンスホールやプール、銀行支店、などの施設も備えていました。「船中では牛鍋会や演芸会や船長のお茶会やいろいろ甲板であり、夜は映画、ダンスでなかなか盛んなものです。しかし私の心はいつも恵泉の畑や校内やとくに桜の並木などにのみ飛んでおります。」「(『恵泉誌』1941.5)と河井道も船内の様子を自らの心情も込めて記しています。河井道が渡米した数か月後の1941年7月、サンフランシスコ航路は日米関係の悪化により休航となりました。その後鎌倉丸は1941年8月17日、日本海軍に徴用され、1943年4月、米軍潜水艦の雷撃により沈没したのです。

「鎌倉丸」が豪華客船として就航していた時期と、「桑原カバン店」が銀座にあった時期十数年がほぼ重なり合うのは偶然の事かもしれませんが、この小さなトランクが河井道の旅と生きた時代の歴史の片鱗を今に残してくれているのではないのでしょうか。

(協力:学園史料室)



「花と平和のミュージアム」ニュースレター 発行日 2017年4月1日 発行・編集 恵泉女学園 花と平和のミュージアム

多摩キャンパス窓口 恵泉女学園大学 研究機構事務室 〒206-8586 多摩市南野2-10-1 TEL.042-376-8332 URL:http://www.keisen.ac.jp

「花と平和のミュージアム」に対し、ぜひご意見、ご希望などお寄せください。これからの活動の貴重な糧とさせていただきます。恵泉に連なる全ての方々よりお待ちしております。

麥科ガーデンなどサテライトに関するご質問、ご要望等でも結構です。お問い合わせ先 E-mail:museum@keisen.ac.jp